

実習（コミュニケーション支援実習）

司会：板倉、小山

対面実習（つばき会館）

8月20日（日）9:00～16:00

担当者：板倉、小山 コア：沖田（午後）、山田那、平山

支援ST：三上紀、細川、木村、安宅、中元

目的：意思疎通支援の基礎技術を復習しながら、理解、表出を補う会話技術を用いた実習ができる

事前準備		
1週間前	受講生	●準備物→テキスト、白紙、サインペン ●受講生用スケジュール送付
	ST	●参加コアST、支援STを確認 ●当日のスケジュール、役割分担表を提案 ●内容確認 ●模擬失語症者と受講生の組み合わせを調整

当日		時間	担当者	内容
AM	集合	9:00	コアスタッフ 支援ST	会場設営 コア・支援STに当日のスケジュール・目的について説明 模擬失語症者（コア・支援ST）と受講者の組み合わせ調整・確認
	受付開始	9:40		出欠確認：山田那 健康チェック：平山
	スケジュール確認	10:00～10:10	板倉	
	コミュニケーション支援実習 （復習） 受講生2人1組	10:10～11:10	板倉	受講生にはYes-Noで答えられる質問により目標語を絞り込む練習であることを伝える。 10:10～10:20 右列の人だけに「ジョウロ」などと物品名を書いた紙を配る。 （全てのグループに別の単語を準備する） 左列の人はYes-Noで答えられる質問をして、それが何かを当てる。 到達しなくても終了（実質8分程度） 10:20～10:30 左列の人に紙を配る。今度は右列の人が質問をして、答えを当てる。 10:30～10:40 「表出面を補う会話技術」を復習 10:40～10:55 左列の人に人物名を書いた紙を配り、同様に練習する。 10:55～11:10 次に右列の人に紙を配り、同様に行う。
	休憩10分	11:10～11:20		
	コミュニケーション支援実習 （復習） 受講生2人1組	10:10～11:10	板倉	11:20～11:30 「表出面を補う会話技術」を復習する 11:30～11:40 左列の人は相手に見えないように紙に誕生日を書く。 右列の人が当てる。 11:40～11:50 司会者が正答に至ったグループに、使用した方法を尋ね、全員で技術を確認する。 11:50～12:00 右列の人は1～100の任意の数字を紙に書く。 左列の人が当てる。 12:00～12:20 正答に至ったグループに使用した方法を尋ねる。 使用されなかった会話技術を確認し、テキスト以外の技術の例があれば提示する
昼休憩40分		12:20～13:00		

PM	コミュニケーション支援実習 (復習) 模擬失語症サロン 8グループ→ST1名、受講生2~3名	13:00~14:05	小山	13:00~13:20 午後の課題説明 (サロンの概要、理解課題、表出課題の内容) 役割決め: アナウンスなど説明➡1名 会話➡その他2名 13:20~13:30 模擬サロン開始、今日の内容のアナウンス (司会: 小山) ◆小山が伝えるアナウンスを、受講生1名が模擬失語症者に確認を取りながら説明する。 アナウンス内容「今日は、エディオンに買い物外出する予定だったが、気温が35度もあります。 熱中症予防のため中止して、皆さんでテーブルごとに会話を楽しみましょう」 13:30~13:50 模擬失語症者との会話 テーマ「今月~来月の予定」 13:30 1人目 13:40 2人目 (10分取っているが、交代の時間を考えると、実際は8分程度) ◆模擬失語症者が「何かを伝えようとしている」ので、理解しやすい方法で尋ね、 表出しやすい方法を駆使しながら援助する。また、表出された内容の確認を行う。 ◆8分経過したら、次の人と交代。会話はその続きを行う。課題となった伝えたいことが 終わっても、自由会話を継続する。 ◆受講生2名のグループ ①アナウンスと前半の会話 ②後半の会話と次回お知らせ ◆見学の2名は、「失語症者が理解/表出を支援する方法」「確認の仕方」に ポイントをおいて見学する。 13:50 次回のサロンのアナウンスを行う (配布物有り) ◆配布物と共に、小山が伝える次回案内を、受講生1名 (先ほどアナウンスを 説明した人) が模擬失語症者に確認を取りながら説明する。
	休憩10分	14:05~14:15		
	グループディスカッション	14:15~14:35	各担当ST	◆失語症者の症状について (どのような支援をすれば理解しやすかったか、表出しやすいようにどのように工夫すればよいか) ◆お互いの支援の方法、確認の方法について、よかった点や気づきを出し合う →支援STも参加する。最初は見守り、会話が脱線すれば軌道修正など行う)
	チェックシート記入	14:35~14:50		受講生、支援STともチェックシート記入
	休憩10分	14:50~15:00		
	振り返り	15:00~15:30	各担当ST	支援STとの振り返り (チェックシートの記入をもとに) ◆失語症者への対応として、うまくできた点、難しかった点、困った点、疑問に思った点を共有し、 必要なアドバイスを行って頂く。
	グループ発表	15:30~15:50	小山	各グループ、ディスカッションやフィードバックでの内容を発表する
	まとめ、連絡事項	15:50~16:00		事務連絡、次回の案内: 小山
終了後	反省会	16:00~16:30	コア、支援	

模擬失語症者(支援ST)の設定

人物：年齢設定は自由だが、外観と大きな差がないようにする。性別は変えない。

失語症のレベル

理解：日常会話の理解は短文で概ね可能だが、文字、記号、描画、ジェスチャーなどがあると理解しやすい。

長い文章を音声だけで呈示されると、分からなかったり、あいまいな応答になる。（例：明日のカープ戦は、中日との対戦でナゴヤドームのナイターだそうですよ）

表出：2～3 語文での音声表出が可能であるが、目標語の喚語困難、錯語により、キーワードの表出が難しい。支援者は確認が必要。

文字は部分的に可能、描画やジェスチャーもぎこちないが若干可能。（支援者からすすめられたら、実施可能）

右麻痺の設定（書字の場合は左手で実施）